

東芝テック（株）静岡事業所（大仁） サイトレポート情報

所在地： 静岡県伊豆の国市大仁570

敷地面積：55,066m²、建家総面積：53,552m²、緑化率15.03%

設立：1950年2月、従業員：703人（関係会社常駐含む）（2025年4月現在）

主要製品：POSシステム、電子レジスター等

ISO14001認証取得：1997年6月、最新更新年月：2024年11月
（ISO認証番号：JQA-EM6903）



ごあいさつ

当静岡事業所大仁サイトは、自然豊かな伊豆半島に位置し、富士・箱根・天城の山々を仰ぎ、狩野川の清流と緑豊かな自然環境に恵まれた立地条件の中で事業を行っています。

事業所では、POSシステム、電子レジスターなどの流通情報システム機器の開発・製造・サービスを行っており、これらによる環境に対する影響を低減するため環境保全活動を推進しています。



環境保全担当責任者 田中秀幸

2024年度の環境の主な取組み

☆ISO14001環境マネジメントシステム

1997年6月に認証取得、2012年4月からIMSとして活動

2023年11月に更新審査合格、及びIMS「プレミアムステージ」合格

2024年11月に定期審査実施、「登録されているマネジメントシステムについて、システムが維持されている」と評価

☆省エネルギー

電力量目標 400.0万kWh ⇒ 実績 374.5万kWh

☆廃棄物の削減

廃棄物総排出量目標 1,558kg/億円 ⇒ 実績 1,233kg/億円

☆環境調和型製品の開発

新商品において環境自主基準適合 ⇒ セルフPOS：SS-N1シリーズ

☆資源の有効活用：前機種SS-900に対し製品重量削減

・化学物質の削減：RoHS2(特定フタル酸対応)ハロゲンフリープラスチック及びプリント基板採用

新商品特定化学物質全廃 ⇒ 実績 全10シリーズ製品(ODM製品含む)

RoHS2又は旧RoHS、環境自主基準適合OK

☆全員参加・啓発活動の展開

環境月間・CE(3R)推進月間・省エネ月間による環境啓発活動、環境ニュース配布

☆地域との協調

ペットボトルキャップ寄付、プルタブ寄付、近隣幼稚園に読み聞かせ実施
事業所周辺地域清掃を再開

製品・環境技術開発、環境配慮ポイントの紹介

【2024年度に開発した主な製品】

小型サーバー XP-9800シリーズ



《特徴》

店舗用サーバに適した標準モデルと、メモリとストレージの容量を拡大した本部システム向けモデルの2機種。

《省資源化》

一部部品に再生プラスチック採用

《省エネ》

省エネルギー法(2021年度基準)に基づくエネルギー消費効率：22.6(区分1)

《化学物質の管理》

RoHS2特定フタル酸対応

筐体プラスチックにハロゲンフリー材採用

IMS方針

私たちは、当社行動指針「モノ創りへのこだわりと挑戦 いつでもどこでもお客様とともに」のもと、「統合マネジメントシステム (Integrated Management System)」を構築し、継続的な改善を図ることにより、以下を推進します。

1. すべての事業活動において、法令、規制、契約上の義務、その他の要求事項を順守します。
2. 私たちはモノ創りにこだわり、確かな品質・性能と高い利便性をもつ商品・サービスをタイムリーに提供し、お客様の発展に貢献します。
3. 環境に配慮したモノ創りを通して、お客様及び自社の環境負荷を低減し、環境汚染の予防に努め、持続可能な地球社会の発展に貢献します。
4. お客様と社会の信用に応えるため、事業活動全般における情報に必要なセキュリティ対策を講じ、情報漏洩を防止します。
5. 「安全で快適な職場環境づくりと心身の健康保持増進」を念頭に、組織で働く全ての人の生命・安全を最優先した事業活動を行います。

東芝テック株式会社 静岡事業所(大仁) 環境基本方針

当事業所は、自然豊かな伊豆半島に位置し、富士・箱根・天城の山々を仰ぎ、狩野川の清流と文化を育む、魅力(ゆめ)ある伊豆の国市の住民と共存しています。

わたしたちは環境への取組みを、企業経営の最重要課題の一つとして位置づけ、「東芝テックグループ経営理念」のもと、人と、地球の、明日のために豊かな価値の創造と地球との共生を図り、顧客現場の課題を解決するソリューションパートナーとして脱炭素社会、循環型社会、自然共生社会を目指した環境経営により、持続可能な社会の実現と気候変動や持続可能な消費と生産への対応などのSDGsの達成に貢献し、新しい未来を始動させます。

1. 事業と調和させた環境経営の推進
 - 1) 事業活動、製品に関わる環境側面について、生物多様性を含む環境影響を評価し、環境負荷の低減、環境汚染の予防の保全等に関する環境目標を設定・推進します。
 - 2) 監査の実施や活動のレビューにより環境経営の継続的な改善を図り、定期的な見直しを行います。
 - 3) 環境に関する法律・条例及び組織として受入れを決めた要求事項、自主基準などを順守します。
 - 4) 従業員の環境意識をより高め、全員で取り組みます。
 - 5) 環境方針、環境活動について広く社内外へ積極的に公開します。
 - 6) グローバル企業として、東芝テックグループ一体となった環境活動を推進します。
2. 事業活動での環境負荷低減と環境調和型製品の提供
 - 1) 地球資源の有限性を認識し、事業活動、製品の両面から有効な利用、活用を促進する積極的な環境施策を展開します。
 - 2) ライフサイクルを通して環境負荷の低減に寄与する環境調和型製品を提供します。
 - 3) 設計、調達、製造、物流、廃棄などすべての活動段階において、気候変動への対応、資源の有効活用、化学物質の管理などの環境負荷低減に向けた施策に取り組みます。
 - 4) 持続可能な社会の実現のため、社会に与える価値や意義を考え、将来を見据えた環境技術の開発に努めます。
3. ステークホルダーとの連携
 - 1) 地域・社会をはじめとするさまざまなステークホルダーと積極的なコミュニケーションを図り、連携した活動を推進します。

2024年 4月 1日

東芝テック株式会社 静岡事業所(大仁)

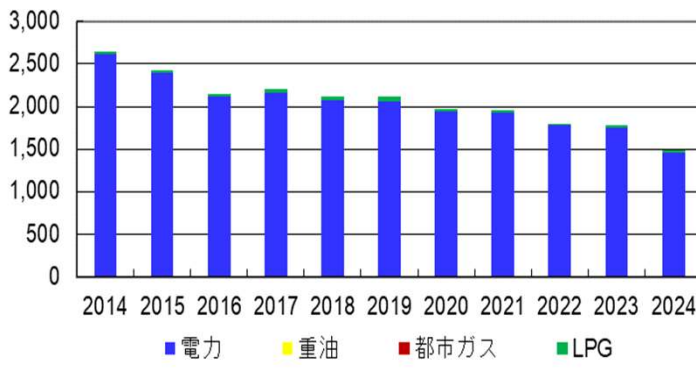
事業所長 相原哲也

環境負荷データ

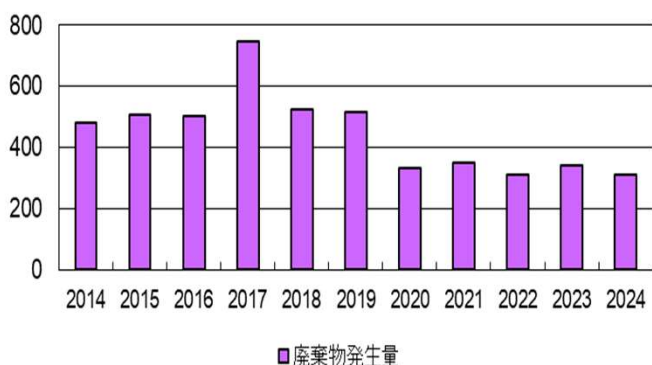
エネルギー使用量(単位:KL)



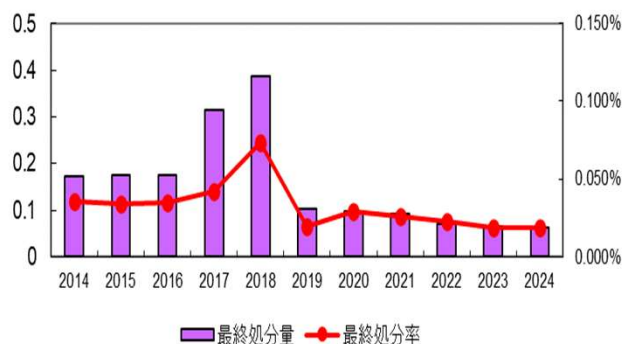
CO₂排出量(単位:トン-CO₂)



廃棄物総発生量(単位:トン)

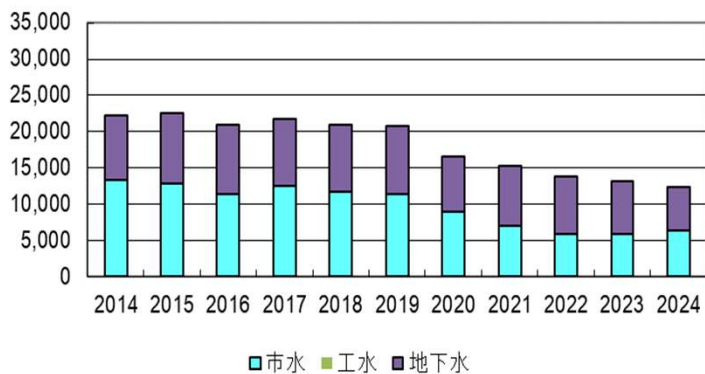


廃棄物最終処分量と最終処分率(単位:トン、%)

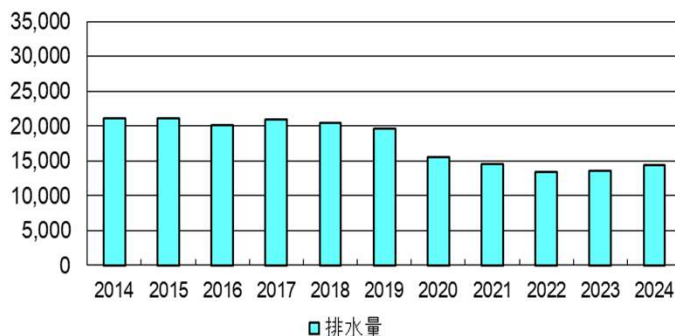


主な廃物名: プラスチック、木屑、ガラス屑、廃油等

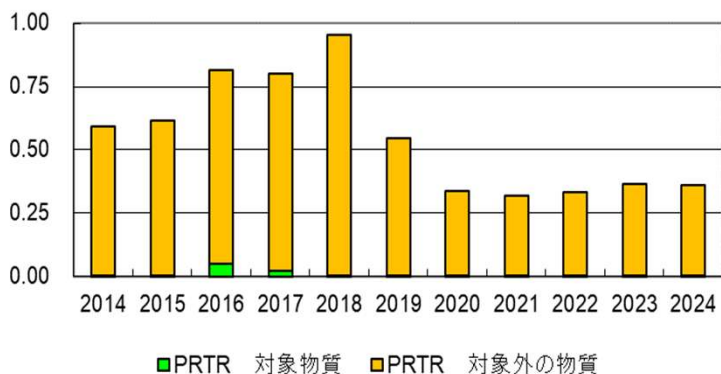
水の使用量(単位:千m³)



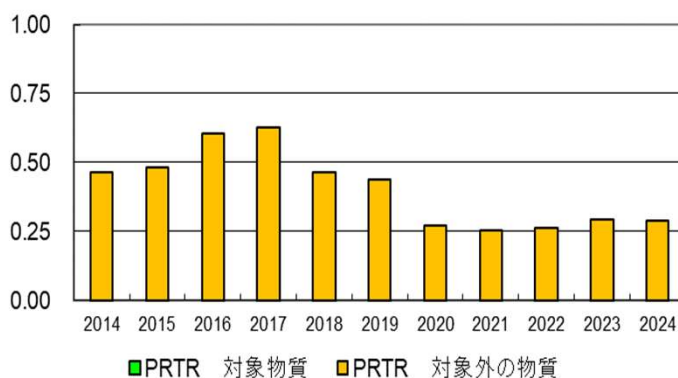
排水量(単位:千m³)



化学物質削減対象物質の取扱量(トン)



化学物質削減対象物質の排出量(トン)



主な化学物質: エタノール

遵法管理状況

<大気測定結果> 特定施設無し

	法規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
NO _x (ppm)	対象外	対象外	対象外	対象外
SO _x (Nm ³ /h)	対象外	対象外	対象外	対象外
ばいじん (mg/Nm ³)	対象外	対象外	対象外	対象外

<排水測定結果> 特定施設無し(自主測定)、河川(狩野川)へ放流

	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
水素イオン濃度(pH)	5.8~8.6(水濁法)	5.9~8.5	8.4	2ヶ月1回
BOD (mg/ℓ)	最大160(平均120)	25	0.8	2ヶ月1回
COD (mg/ℓ)	最大160(平均120)	120	—	2年1回
SS (mg/ℓ)	最大200(平均150)	40	3	2ヶ月1回
ルルルハサ (mg/ℓ)	5	4	<0.5	2ヶ月1回
鉛及びその化合物 (mg/ℓ)	0.1	0.08	<0.01	2年1回

<騒音・振動測定結果> 特定施設 騒音:空気圧縮機施設(コンプレッサー)、振動:空気圧縮機施設(コンプレッサー)

	測定場所:時間	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
騒音(dB)	敷地境界:昼	65	65	57.4	年2回
	敷地境界:夜	55	55	53.7	年2回
振動(dB)	敷地境界:昼	70	70	38.0	年1回
	敷地境界:夜	65	65	22.2	年1回

<その他測定結果> (下水道法:主な測定結果)特定施設無し(自主測定)

	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
水素イオン濃度(pH)	5.0~9.0	5.2~8.8	8.7	年4回
BOD(mg/ℓ)	600	550	280	年4回
SS(mg/ℓ)	600	550	360	年4回

<環境事故・指導指摘・苦情の有無>

	状況
環境事故発生の有無	なし
工場周辺や地域での環境問題発生の有無	なし
行政からの指導・指摘の有無	なし
近隣住民からの苦情の有無	なし

環境コミュニケーションの紹介

<環境一斉アクション:プルタブ・ペットボトルキャップ寄贈>

当事業所では、社会貢献活動の一環としてプルタブ・ペットボトルキャップを集積し、関係団体に寄付しています。これは2回/年実施しており、世界環境デー及び国際ボランティアデーに合わせ、プルタブを関係団体に寄付しました。

【実施概要】

- ・日時: 2024年 6月21日 3.0kg(約 6,000個)
2024年12月 5日 5.1kg(約12,750個)
- ・ペットボトルキャップ寄付 484kg (子供ワクチン121人分/年寄付した計算)



<近隣幼稚園に読み聞かせ実施>

当事業所では、社会貢献活動の一環として2011年度から地元の幼稚園に読み聞かせを実施してきました。過去には、小学校への読み聞かせや農作業の手伝いをボランティアとして実施してきました。コロナ禍ではリモートで実施した年もありましたが、22年度からコロナ前と同じように園児と対面しての読み聞かせを再開し、24年度は9回訪問することができ園児たちに大変喜ばれました。

【実施概要】

- ・日時: 2024年5月21日、6月3日、5日、9月18日、10月23日、11月20日、1月14日、15日、2月13日 (計9回)



生物多様性の保全への取り組み

<絶滅危惧種 三島柴胡(ミシマサイコ)の栽培と黒メダカの繁殖>

当事業所では、生物多様性ビオトープ活動として、絶滅危惧種のミシマサイコの栽培に取り組んでいます。

ミシマサイコは、セリ科の多年草で本州から四国・九州の日当たりの良い山野に自生していましたが、乱獲により絶滅危惧種となっています。

冬季に種が多く採取できた年には従業員に種を配布し、自宅での栽培に挑戦して頂きました。

又、黒メダカの繁殖飼育もしており、従業員への癒しやお客様の工場見学のルートにも役立てています。

24年度は卵から13匹の稚魚が孵りました。

【ミシマサイコの栽培】



【過去の活動】 従業員自宅で栽培状況



【メダカの繁殖・飼育】



絶滅危惧種 黒メダカ

東芝テックでは現在、生物多様性活動として、この絶滅危惧種である黒メダカを飼育・増殖させています。

タツノメダカ科(アリアケスズキ科)に属する体長4cm程の淡水魚。かつて日本では、童謡や民謡にも歌われたように、小川にはよく普通にメダカの群が見られた。しかし、1980年代あたりから河川のメダカが急激に減少し、姿を見ることが難しくなった。減少の主な原因は、農薬の使用や生活排水などによる水質の悪化、護岸工事や水際の整備などによる産卵の場や小川の減少、繁殖力の増進(ブルーレイやヤンマーなど)による影響が挙げられている。また、メダカは水田のような静かな水域に侵入して繁殖する性質が強く、近年の農地改良に伴う用排水路により、用排水路から繁殖時に水田内に侵入することが困難になっていることが特に顕著となっており、メダカの繁殖力を著しく削いでいる。

こうしたメダカ産卵や稚魚の減少により、1989年2月に環境庁(当時)が発表したレッドリストにて、絶滅危惧種(VU)(環境省レッドリスト)(絶滅の危険が増大している種)にメダカが記載され、メダカは2008年9月に環境省が発表したレッドデータブックに絶滅危惧種として指定された。身近な生き物だったメダカが絶滅危惧種となったことはメディアにも大きく取り上げられ、日本各地で保護活動が活発に行われるようになった。

管理担当 静庵

環境目標

2025年度のサイトの主な環境目標

推進項目	指標	2025年度目標
地球温暖化の防止	電力量	380万kWh以下 (19年度比84.0%) 上期188.6万kWh 下期191.4万kWh
資源の有効活用	総発生量原単位 有価物率	1,157kg/億円以下 (19年度比64.8%) 上期1,270kg/億円 下期1,063kg/億円 65%以上
化学物質管理	環境監査対象施設のリスク低減管理	環境監査評価 「A」維持

環境中期計画

サイトの主な環境中期計画

推進項目	指標	中期計画達成年 (2026年度)目標
地球温暖化の防止	電力量	379万kWh以下 (19年度比83.7%)
資源の有効活用	総発生量原単位 有価物率	1,619kg/億円以下 (19年度比91.6%) 65%以上
化学物質管理	環境監査対象施設のリスク低減管理	環境監査評価 「A」維持